

vol. 2307

【発行】大分県高等学校教職員組合教宣部 大分市大字下郡496-38 大分県教育会館
TEL / (097) 556-2838 FAX / (097) 556-8998 MAIL / ohtwu@view.ocn.ne.jp

大分県高教組情報

【発行者】大野 真二 【印刷】(株)佐伯コミュニケーションズ 【売価】30円(組合員の購読料は組合費の中に含んで徴収しています)



今号の掲載内容 (掲載順)

- 日教組障害児教育研究集会
- 九協障害児教育部学習会 (大分大会)
- みんな行けるんよ 行こうや 地域の学校へ
第21回障害児を普通学校へ・全国連絡会 全国交流集会 (広島大会)

日教組障害児教育研究集会

8月4日(金)～5日(土) ところ 日本教育会館

学校現場でインクルーシブ教育を推進することを目的とし、昨年度より全国寄宿舎研究集会と障害児教育部の研究集会を合同で開催し、本年度が第2回の開催です。わくわく育ちあいの会代表佐々木サミュエルズ純子さんによる講演「地域と学校・子どもたちが教えてくれた『ともに学び・ともに育つ・ともに生きる』ということ」や分散会での討議が行われました。

《参加者の声》

2回目の参加をさせてもらい、雰囲気やまた学習会の内容について理解が深まりました。

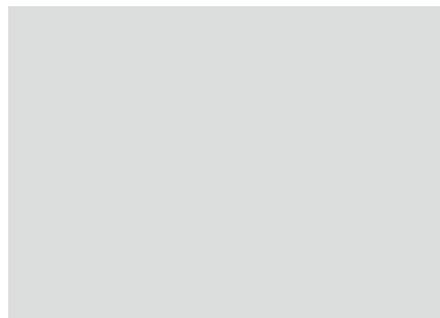
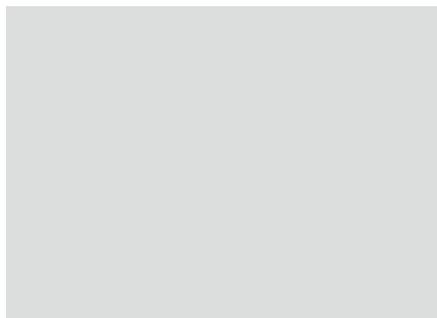
インクルーシブに向けて、地域の重要性(震災(3.11や熊本)による障害者の受け入れの課題、小さいころから地域で育つ)について、何かあった時に、〇〇の子だね、助けに行かなきゃと周囲の理解が深まっていること、また人権意識が根底になればならないことがあげられました。(由布支援分会 堀田文雄)

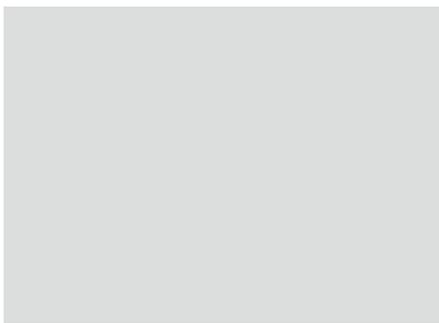


九協障害児教育部学習会 (大分大会)

とき 8月17日(木)～18日(金) ところ J:COMホルトホール会議室

九協障害児教育部学習会が大分県で開催されました。障がい者の自立支援を目的に別府市で活動している自立生活センター「ぐっどらいふ大分」の小賀崇弘さん・川野陽子さん・安部雄貴さんによる記念講演「自立と、学校教育に求めることについて」や学校種別分散会、レポート発表による分科会が行われました。Web併用で行われた学習会には、県外から60名、県内から50名近くの参加がありました。





運営に携わった皆様、お疲れ様でした。

みんな行けるんよ 行こうや 地域の学校へ 第21回障害児を普通学校へ・全国連絡会 全国交流集会(広島大会)

とき 9月17日(日)～18日(月・祝)

ところ 広島市：ワークピア広島

障害のある子どもの就学先の決定にあたっては、国連障害者権利委員会の総括所見でも「通常の学校が障害のある子どもの通常の学校への入学を拒否できないようにする『拒否禁止』条項と政策を制定」と指摘されたように、本人・保護者の意思が最大限に尊重される必要があります。しかし、共に学べるよう希望をしても、地域の学校に就学できない事例や、入試において「総合的判断」により定員内不合格となる事例が後を絶ちません。



廿日市市ともにあゆむ会代表の藤山節子さんによる記念講演「学校教育に何を求める?～イヤな事にイヤと言える力～」やパネルディスカッション「共に生きるって?～子どもの出会いから始まるもの～」等が行われました。

《参加者の声》

昨年9月、国連の権利委員会は、障害者権利条約を批准後の日本のとりくみ状況に対して審査が行われ、現状の分離別学体制を中止するための行動計画を作成するよう日本政府に対する改善勧告がなされた。しかし、文科省は現状維持を表明し今日に至っている。

今回の広島集会には当事者、その保護者、関係団体(日教組含む)等、多くの関係者が集い、2日間にわたって情報の交流、意見交換を行った。集会では、昨年この勧告を受けて、全国連絡会として、数年後には行われる次回の審査に向けてどう運動を進めるかという点に焦点が当たっていたと思う。

初日の講演ではダウン症のお子さんが自らの意思で小学校、中学校、高校で、更に大学にも聴講生として通ったという経験から気づいたこと等が報告された。子どもが困った行動をするときには「あなたは差別的言動をしている」と訴えられていると気づいたというお話や、高校に行くことを選択したときに、お子さんが「私のような子が(中絶されることなく)生まれてくるために(高校に)行く」と言ったというエピソードが心に残った。続くパネルディスカッション、翌日の「(国連勧告後の)運動課題」でも、周りの子どもたちが分け隔てなく関わり、卒業後も友人関係を結んでいるといった、そんなすてきなお話をたくさん聞くことができた。

様々な運動課題に関わる中で、望むような解決につながるには膨大な時間が必要ということは実感としてある。ただ、子どもたち、保護者にとっては「今」この瞬間の課題であることは言うまでもない。同じ時間を生きている人々の想像力を働かせるために、ともかく考えること、伝えることに心を砕こうと思う。

(由布支援分会 濱田真一郎)